



（写真）国営報道局 VTV “5月27日 CNE が選挙の当選者宣誓式を実施”

5月選挙の結果考察

与党 国会253議席、州知事23州

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

5 月25日 国会議員選、州知事選・州議会議員選が行われ、与党連合が圧勝した。

野党主流派は選挙ボイコットを呼びかけており、与党連合が圧勝することは事前に想定されていたことであり、この結果は妥当なものと言える。

しかし、投票数のカウントには大きな疑義があり、今後ベネズエラで行われる選挙の新たな問題になりかねない。

本稿では同選挙の結果を確認し、投票数のカウントにどのような問題があったのかについて紹介したい。

今回の選挙は、国会議員285議席、州知事24人、州議会議員260議席の計569人の公職者を決めるための選挙だった。

なお、同日の選挙に関する基本情報は「[ウィークリーレポート No.407](#)」を参照されたい。

5月27日 CNE は開票率99.88%時点の結果を元に国会議員、州知事らの当選式を実施。

国会議員選では、285議席のうち253議席（全体の88.77%）で与党連合「偉大な愛国者連合（Gran Polo Patriótico、以下 GPP）」の候補者が当選。

穏健野党「民主主義同盟（Alianza Democrática、以下 AD）」が13議席（同4.56%）。

野党主流派から離反した野党「Red Decide（UNT/Unica）」が11議席（同3.86%）。

独立野党「隣人の力（Fuerza Vecinal）」「鉛筆同盟（Alianza Lápiz）」が5議席（同1.75%）の当選が確定している。

州知事選では、全国24州のうち23州でGPPの候補者が当選。1州は野党「Vamos Vamos Cojedes」から出馬したAlberto Galíndez候補が当選（再選）した。

なお、Alberto Galíndez候補は、「第一正義党（PJ）」の党员だったが、今回の選挙に出馬したことでPJから除名処分を受けた政治家。「Vamos Vamos Cojedes」という独自政党から出馬しているが、実質的には野党主流派から離反した野党グループ「Red Decide」に属する政治家である。

州議会議員選についての情報はほとんど公表されていないが、政治全体に与える影響力は小さく、注目すべき選挙ではないだろう。

UNT/Unica 11議席の当選が確定

次に国会議員選の結果について確認してみたい。3ページ目に5月27日時点で確定している国会議員選の結果をまとめている。

与党連合GPPから出馬した主要な政治家は全て当選している。

特筆すべき人物としては、Jorge Rodríguez氏（現国会議長）、Cilia Flores氏（マドゥロ大統領の妻）、Nicolás Maduro Guerra氏（マドゥロ大統領の息子）など。

国会の権限は憲法で定められており、基本的には議席の1/2の賛成があれば法律の承認、国家予算の承認など多くのことが可能になる。また、いくつかのテーマでは議席の3/5超、2/3超の承認が必要となる（詳細は「[ウィークリーレポート No.177](#)」参照）。

今回の国会議員選では、285議席のうち与党連合が253議席（88.77%）を獲得したので、与党連合は野党議員と一切協議を行うことなく、憲法で許されている全ての国会の権限を行使することが出来る。

与党連合に次いで多く議席を獲得したグループは、穏健野党連合AD。「マドゥロ政権の協力者」「野党を裏切った汚職者」というレッテルが張られているが、同グループの中には元主要野党の政治家が多く含まれている。

「Red Decide（UNT/Unica）」からは、Henrique Capriles氏（元ミランダ州知事）、Luis Emilio Rondón氏（元CNE役員）、Stalin González氏（UNT幹部）、Tomás Guanipa（元PJ幹部）、Henri Falcón氏（元ララ州知事）、Pablo Pérez氏（元スリア州知事）らの当選が確定している。

率直に言って穏健野党同盟ADのイメージは悪いので、野党の代表者として与党と与野党協議をできるとすれば、UNT/Unicaの政治家になるだろう。

表：5月25日の国会議員選の結果（5月27日時点の確定情報）

グループ名	得票数	割合 (%)	当選 議員数	割合 (%)	当選した国会議員の名前（主要な政治家のみ）
Gran Polo Patriótico	5,024,475	83.42	253	88.77	Jorge Rodríguez, Cilia Flores, Nicolas Maduro Guerra, Iris Varela, Jesús Faría, Jorge Arreaza, Francisco Arias Cárdenas, Wilmar Castro Soteldo, María Lourdes León, Hermann Escarrá,
Alianza Democrática	361,769	6.01	13	4.56	Bernabé Gutiérrez, Timoteo Zambrano, Alfonso Campos, Luis Parra, Luis Augusto Romero, Juan Carlos Alvarado, José Brito, José Gregorio Correa.
UNT/Unica	304,425	5.05	11	3.86	Henrique Capriles, Luis Emilio Rondón, Stalin González, Tomás Guanipa, Henri Falcón, Pablo Pérez.
Fuerza Vecinal	141,588	2.35	4	1.40	David Uzcátegui, Félix Freites
その他	181,926	3.02	1	0.35	Antonio Ecarri(Alianza Lápiz)
無効票	8,813	0.15	0	0.00	
合計	6,022,996	100.00	282	98.95	

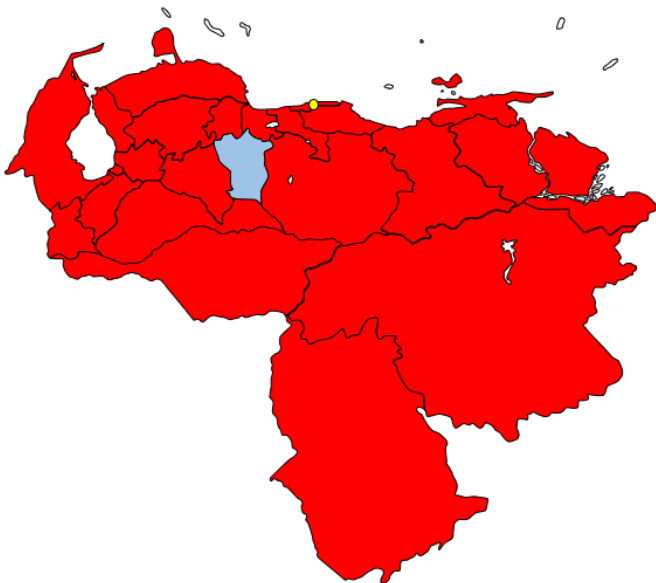
先住民枠	N/D	N/D	3	1.05	先住民枠の3議席を決める選挙は6月1日に実施されるので、現時点で未定。実質的に与党系であることが多い。
合計	N/D	N/D	285	100.00	

（出所）選挙管理委員会（CNE）（25年5月27日発表）より作成 ※ 得票数は開票率99.88%時点の数字

野党 選挙ボイコットで知事失う

前述の通り、全国州知事選では全国24州のうち23州で与党候補が当選。コヘーデス州のみ野党候補が当選した（当選者の顔写真・略歴は「[2025年5月 州知事選当選者リスト](#)」参照）。

図：5月25日の州知事選の結果



（注）赤塗りの州は与党候補が当選した州
青塗りの州は野党候補が当選した州

右の表は各州の当選者と、各州の当選者が獲得した得票率。

与党候補はほぼ全ての州で80%超の得票率を獲得しており、80%を下回った当選州はアマゾナス州（76.03%）、バリナス州（72.45%）、ヌエバエスパルタ州（55.33%）、スリア州（64.65%）の4州のみ。

なお、前回（2021年）の州知事選ではバリナス州、スリア州、ヌエバエスパルタ州は野党候補が当選していた。

下表の選挙結果を踏まえると、野党主流派の選挙ボイコットが無ければ、少なくともスリア州とヌエバエスパルタ州は当選していた可能性が高かったと言えそうだ。

表：各州の当選結果（右の%は当選候補の得票率）

Amazonas	Miguel Rodríguez	76,03%
Anzoátegui	Luis Marcano	87,3%
Apure	Wilmer Rodríguez	96,19%
Aragua	Joana Sánchez	86,92%
Barinas	Adán Chávez	72,45%
Bolívar	Yulibeth García	87,85%
Carabobo	Rafael Lacava	87,68%
Cojedes	Alberto Galíndez	55,22%
Delta Amacuro	Loa Tamaronis	94,13%
Falcón	Víctor Clark	83,17%
Guárico	Donald Donaire	93,15%
Guayana Esequiba	Neil Villamizar	97,4%
La Guaira	José Alejandro Terán	90,65%
Lara	Luis Reyes Reyes	90,95%
Mérida	Arnaldo Sánchez	80,89%
Miranda	Elío Serrano	83,2%
Monagas	Ernesto Luna	94,55%
Nueva Esparta	Marisel Velásquez	55,33%
Portuguesa	Primitivo Cedeño	93,61%
Sucre	Jhoanna Carrillo	94,4%
Táchira	Freddy Bernal	80%
Trujillo	Gerardo Márquez	91,86%
Yaracuy	Leonardo Intoci	89,83%
Zulia	Luis Caldera	64,65%

（写真）Ultimas Noticias

投票率43.18%に疑問

今回の選挙で特に問題になっているのは、「選挙管理委員会（CNE）」が発表した投票率である。

CNE は、同日の投票率について、43.18%と発表した（5月27日、開票率99.88%時点）。

そして、本稿3ページにある通り各グループの得票数、得票率について以下の通り発表している。

- ・ GPP の得票数：502万4475票
（全体の83.42%の票数を獲得）
- ・ AD の得票数：36万1769票
（全体の6.01%の票数を獲得）
- ・ UNT/Unica の得票数：30万4425票
（全体の5.05%の票数を獲得）
- ・ Fuerza Vecinal の得票数：14万1588票
（全体の2.35%の票数を獲得）
- ・ その他の得票数：18万1926票
（全体の3.02%の票数を獲得）

無効票含めて、総投票者数は合計で602万2996票ということになる。

そして、総投票者数が602万2996票で、その投票率が43.18%だった場合、母数となる総有権者数は1394万8578人になる（右上「表：投票率が43.18%の場合の有権者数」参照）。

表：投票率が43.18%の場合の有権者数

項目	人数	割合
投票した有権者数	6,022,996	43.18
投票しなかった有権者数	7,925,582	56.82
総有権者数	13,948,578	100.00

（注）CNE公表情報より筆者計算

しかし、CNE は今回の選挙の有権者数について、事前に2148万5669人と発表していた。

2148万5669人と1394万8578人には753万7091人の差があるが、CNEはこの差が生じた理由を説明していない。

“活動している有権者”は1395万人？

この差の理由になり得るのは、CNE のカルロス・キンテロ役員の一次速報での発表である。

キンテロ役員は一次速報の際、投票率について「Una Participacion de 42.63% de las **electoras y los electors activos**」と発表した。これは日本語に訳すると「**活動している有権者**の投票率は42.63%」という意味になる（2次発表で投票率は、42.63%から43.18%に修正されている）。



「活動している有権者（electoras y los electores activos）」という表現は、これまで聞いたことのないもので、筆者はこれが753万7091人の差の理由と考えている。

なお、多くのベネズエラ人が外国に移住しており、実質的に投票することが出来ないベネズエラ人有権者を除いた可能性は考えられる。

「国連移住機関（IMO）」や各国政府が協力して更新しているベネズエラ移民統計プラットフォーム「R4V」によると、24年12月時点で外国に居住しているベネズエラ人は約800万人とされている。

この800万人は全て成人（ベネズエラでは18歳以上が有権者）というわけではなく、成人は600万人～700万人くらいだろう。

従って、外国に移住し、実質的に投票に参加することが出来ないベネズエラ人を除いただけで753万7091人の差を説明するのはやや無理がある印象を受ける。

2025年後半には全国市長選が行われる予定だ。

次の選挙を行う際にも CNE は有権者数を発表することになるが、それまでには753万7091人の差の理由が明らかになっていることが望まれる。

本当の投票率は28.03%では

仮に2148万5669人を母数とした場合、602万2996票の投票率は28.03%になる。

表：CNE公表有権者をベースとした投票率

項目	人数	割合
投票した有権者数	6,022,996	28.03
投票しなかった有権者数	15,462,673	71.97
CNEが公表した有権者数	21,485,669	100.00

存在がなくなった有権者	7,537,091	35.08
-------------	-----------	-------

（注）CNE公表情報より筆者計算

前評判では、今回の選挙の投票率は30%前後という予想が多かった。個人的には28.03%という投票率が現実に近い印象を受ける。

以上